

写真・動画共有アプリのデータを用いた生活語の幼児語化の検討

鈴木 晴香[†] 樋口 智也[†] 渡邊 貴之[†] 松浦 博[†]

[†] 静岡県立大学経営情報学部

1. はじめに

近年、乳幼児期の子と親との重要なコミュニケーションである幼児語に関する知識は、使用への抵抗感もあり若い世代で減少している^[1]。本報告では子育て世代が気軽に使える、生活語を幼児語化するアプリの開発について述べる。なお、20年前には全国幼児語辞典が発刊されているが^[2]、スマホアプリに慣れた現代人にとっては敷居が高い。また、ポータルサイトで0~3歳の子供がいつ、どんな単語を覚えていくのかを、音声や意味、月齢などの観点から検索・閲覧できるツール「こども語辞典」が提供されていた^[3]。しかし、スマホの普及によって存在意義が薄れ、2017年2月末で終了している。

2. 幼児語の収集とデータの整理

幼児語の収集は写真・動画共有アプリを用いて行った。調査対象は#1歳11ヶ月のタグが付けられた投稿のうち幼児が発話している動画である。発話の聞き取りは先頭筆者のみで行った。収集したデータから幼児の発音しやすい音、しにくい音、代用されやすい音を見出し、擬音語や擬声語からなる幼児語も多数収集した。動画は投稿の中から無作為に抽出し、55アカウントの投稿から計180個の発話を収集した。調査期間は2017年11月~2018年6月であった。幼児の発話の特徴は、

- ・ さ行が圧倒的に言いにくい。
- ・ 「りゅ」と「ら」を除く、ら行の発音が苦手
- ・ 「は」と「だ」は子音が抜けて母音「あ」になりやすい。
- ・ 母音が「う」の音節では、「ず」が「じゅ」に、「す」が「しゅ」にはなっても、「う」のみに変化するのは少ない。
- ・ 母音「あ」「い」の音節は母音のみになることがある。
- ・ 長音は短縮されやすい。
- ・ 「し」は約半分の確率で「ち」に代わる。
- ・ 「き」「ぴ」は「ち」に代わりやすい。

幼児語は成人語の音韻変化によって成立する語(以下、変化語)と、擬音語や擬声語から伝統的に確立されてきた語(以下、伝統語)に分けられる。収集した伝統語は先行研究と大差なかった。しかし、「写真を撮る」を表す「びしびし」や、「スマホゲームをする」を表す「しゅーしゅー」は、現代ならではである。

3. 幼児語化ソフトの試作

成人語から幼児語にする幼児語化ソフトを表計算ソフト上で試作した。入力欄にひらがなで成人語を打ち込むと、変化語を音韻変換規則によって候補表示する。また、伝統語が(登録されていれば)検索し表示する。

入力して良いところ↓	長音は「どーぞ」のように、-で入力します
はくしゅ	入力OK!
伝統的な幼児語	
ばちばち	
音の変化した幼児語	
あくしゅ	1
あきゅしゅ	2
はくしゅ	3
はきゅしゅ	4

図1 幼児語化ソフト 検索・変換結果の画面の一例

4. スマホアプリ

表計算ソフト上で作成した幼児語化ソフトの機能を盛り込んだAndroidアプリを作成した。このアプリでは幼児語変換および検索だけでなく、カテゴリ別に幼児語を調べることが可能とした(図2)。また、幼児語が表示されると、その画像を表示し(図3)、幼児的な発話で音声合成音を出力する。Androidアプリの作成はAndroid Studioで行い、音声合成は「月読アイEX」を用いて作成した。幼児語変換についてはpythonでプログラミングし、サーバ上で動作させ、アプリから参照する方式とした。

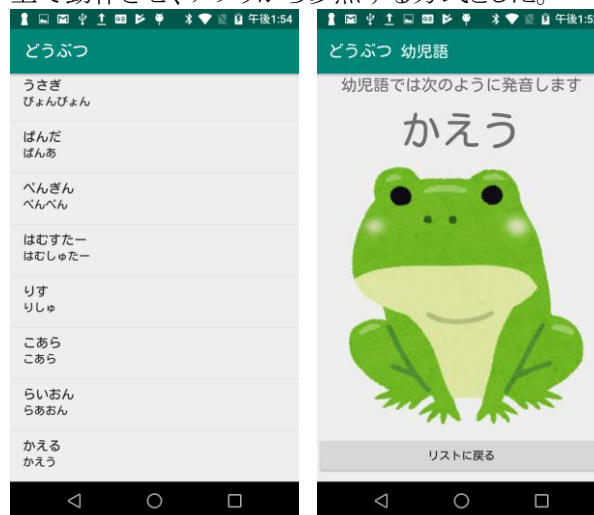


図2 カテゴリ別画面の一例 図3 幼児語表示画面の一例

5. むすび

写真・動画共有アプリのデータを用いて、幼児語の現状を踏まえた、成人が使う生活語を幼児語化するスマホアプリを開発した。今後は、アプリ利用者の声を参考に、UIの向上と幼児語化の精度を高める予定である。

参考文献

- [1] 山田聖心, 聖心女子大学大学院論集, Vol.39, No.1, pp29-54.
- [2] 友定賢治, 全国幼児語辞典, 東京堂出版(1997).
- [3] NTTコミュニケーション科学基礎研, NTTレゾナント, gooベビー“こども語辞典”, 2008年1月31日-2017年2月28日.